

## 製品安全データシート

## 【製造者情報】

会社名 都インキ株式会社  
 住所 〒538-0044 大阪市鶴見区放出東 1-7-13  
 担当部門 技術課 担当者 松本 守  
 電話番号 06-6961-0101 FAX 番号 06-6961-0303  
 緊急連絡先 技術課 電話番号 06-6961-0101

整理番号 Z-56-02

作成 平成 7年 6月 1日  
 改訂 平成 21年 10月 1日

## 【製品名（商品名）】

ドライチェッカー “M”

## 【物質の特定】 単一製品・混合物の区別：混合物

成分及び含有量：

成分名	含有量 %	CASNo.	安衛法 No.	備考
石油系炭化水素	45～55 %	—	非該当	
LPG (イソブタン ノルマルブタン プロパン)	50～55 %	75-85-5 106-97-8 74-98-6	非該当 480 480	可燃性ガス 3種類混合

安衛法 No.：労働安全衛生法の第 57 条の 2 第 1 項政令指定物質の政令番号

※化学物質管理促進法（略称）：第 1 種及び第 2 種指定化学物質は含有していない。

## 【危険有害性の分類】 分類の名称：可燃性ガス

危険性：高圧可燃性ガスが入っている。火災時における集中的な熱により缶の破裂、爆発の危険性がある。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

【応急処置】 目に入った場合：直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。出来るだけ早く眼科医の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：汚染された衣服や靴等をすばやく脱ぎ、付着物を布にてすばやく拭き取る。石鹸等を使用し、大量の水で十分洗い流す。

吸入した場合：蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移動し、体を毛布等で覆い暖かくし安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には直ちに人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の手当てを受ける。嘔吐物は飲み込ませず、気管に入らぬように注意する。

## 【火災時の措置】

消化剤：炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂

消化方法：・適切な保護具（耐熱性着衣等）を着用し、風上から消化する。

- ・可燃性のものを周囲からすばやく取り除く。
- ・指定の消火器を使用する。
- ・水を消火に用いてはならない。
- ・火災の現場にエアゾール製品があると爆発する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取ること。
- ・高温にさらされる製品容器に水をかけて冷却する。

## 【漏出時の措置】

- ・作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・漏れ発生時（噴出時）には、風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスが噴出してから処置をする。

- ・ 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・ 付着物、廃棄物等は、関係法規の基準に基づいて処分を行う。
- ・ 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備しておく。
- ・ 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物をすばやく取り除き、換気を良くする。
- ・ 衝撃、静電気等で火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には、盛り土で囲って流出を防止する。
- ・ 河川等へ排出され、環境に影響を与えないように注意する。

#### 【取扱い及び保管上の注意】

- 取扱い
- ・ 換気の良い場所で取り扱う。
  - ・ 容器に使用の都度キャップをかぶせる。
  - ・ 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
  - ・ 火災に向かって噴射してはならない。
  - ・ 静電気対策のため装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
  - ・ 工具は火花防止型の物を使用する。
  - ・ 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を設け適切な保護具を付けて作業をする。
  - ・ 皮膚、粘膜、作業衣に付着したり、目に入らないように適切な保護具を着用する。
- 保管
- ・ 直射日光を避け通風の良い冷暗所に保管する。
  - ・ 水周りや湿気の高いところに保管すると、缶が錆びて内容物が漏出又は噴出する恐れがある。
  - ・ 火気、熱源から遠ざけて保管する。
  - ・ 40℃以上になる場所には保管しないこと。

#### 【暴露防止措置】

- 設備対策
- ・ 取扱い設備は防爆型とする。
  - ・ 排気装置を設置し、蒸気が滞留しないようにする。
  - ・ 取扱い場所の近くには、高温、着火源となる物が置かれられないような設備とする。
  - ・ 屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるような設備とする。
  - ・ タンク内部の密閉場所で作業する場合は、密閉所持に底部まで十分に廃棄できる装置を設置する。
  - ・ 取扱い場所は、給排気が十分取れる設備とする。
- 保護具
- 呼吸器系の保護：通常必要ではないが、必要に応じて有機ガス用防毒マスクを着用する。密閉された場所では、送気マスクを着用する。
- 目の保護：保護眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護：有機溶剤又は化学薬品に侵されない材質の手袋を着用する。

#### 【物理／化学的性質】

状態	液体、気体（エアゾール包装で容器内部は、液体状態） 色：無色 臭気：無臭
沸点（最低～最高）	原液：250℃以上 ガス：-42℃～-0.5℃
蒸気圧（最大値）	原液：測定データ無し ガス：200000 Pa（-25℃）
比重（密度）	原液：0.83～0.86 ガス：0.55
pH 値	該当しない
その他	特に無し

## 【危険性情報】(安定性・反応性)

製品特性	引火点 発火点 爆発限界	原液：180℃以上 原液：測定データ無し 原液：(下限) 1.0% ガス：(下限) 1.6%	ガス：-104℃ ガス：430℃ (上限) 7.0% (上限) 9.5%
反応性 安定性	条件 接触により危険性のある物質 焼却などによる有害ガス発生 その他の危険性情報	：標準的条件下では安定である ：酸化剤 ：不完全燃焼によりCO等が考えられる ：常用温度で缶内圧は約4.5 kg/cm <sup>2</sup> 40℃以上になると爆発の恐れがある	

## 【有害性情報】

- 組成物質の有害性及び暴露濃度基準

物質名	管理濃度	ACGIH	IARC	その他の有害性
石油系炭化水素	規定なし	5mg/m <sup>3</sup> (TWA) (鉱油ミストとして)	—	経口ラット LD <sub>50</sub> 5g/kg 以上 (推定)
LPG	1,000ppm		—	

- 組成物質に関するその他の有害性情報  
噴射剤である液化ガスが皮膚に触れると炎症や凍傷を起こす恐れがある。
- 製品に関する有害性情報  
製品としての安全性試験は行っていない。

## 【環境影響情報】

知見はないが、漏洩時、廃棄等の際には環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。

## 【廃棄上の注意】

- 中身を使いきってから廃棄する。
- 中身及びガスが出なくなるまで使いきった後でも、そのまま火中に入れると破裂する恐れがある。
- 排気する場合には、ガスを完全に抜き、かつ市販の孔開け器等で本体に孔を開けること。
- ガスを抜く場合及び本体に孔を開ける場合には、中身の噴出に注意すること。
- 廃液、容器等を委託処理する場合は、認可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をすること。
- 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- 廃水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の処理基準にしたがって処理を行うか、委託をすること。

## 【輸送上の注意】

- 共通：取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意事項に従う。  
運搬に際しては、容器を40℃以上に保ち、転倒、落下ならびに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- 陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、その他法令の輸送について定めるところに従う。  
海上輸送：船舶安全法に定めるところに従う。  
国連番号：1950

## 【適用法令】

- 高压ガス取締法：適用除外（液化ガス、可燃性ガス）  
消防法：第4類第3石油類 非水溶性液体  
労働安全衛生法施工例：引火物の物、可燃性ガス  
船舶安全法：危険物（高压ガス）
- 航空法：高压ガス  
化学物質管理促進法（略称）：該当しない

---

**【その他】**

参考資料： 1) 製品安全データシートの作成指針 社団法人 日本化学工業協会発行  
2) 製品安全データシートガイドブック 社団法人 日本塗料工業会発行  
3) 原材料のMSDS 原材料メーカー他

記載内容の問い合わせ先： 電話 06-6961-0101 都インキ株式会社 技術課

---

☆ この「製品安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。

本製品を取扱う場合はこの記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。

本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。